

## 平成18年度第1回周防大島町行政改革推進委員会会議録

- 1 開催日時 平成19年3月2日(金) 10時15分～11時35分
- 2 開催場所 周防大島町役場1階会議室
- 3 出席者 副会長 中原 貞義  
委員 大浪 和郎  
委員 村川 照敏  
委員 三原 伊文  
委員 峰 博  
(欠席者：嶋元会長、珠山委員、近藤委員、平佐委員、藤本委員)  
事務局 政策企画課 課長 中野守雄  
班長 岡野正徳  
主幹 近藤 晃  
主幹 藤山 忠

### 4 提出資料

- (1) 行政改革実施計画及び集中改革プランへの取り組み状況及び成果報告(概要版)
- (2) 行政改革実施計画及への取り組み状況及び成果報告
- (3) 集中改革プランへの取り組み状況及び成果報告

### 5 議事

行政改革実施計画及び集中改革プランへの取り組み状況及び成果報告について、資料により事務局が報告を行った。

行政改革実施計画及び集中改革プランへの取り組み状況及び成果報告の内容について、欠席の嶋元会長より事務局に寄せられた意見を報告した後、各委員が意見を述べた。

#### 【主な意見・質疑応答】

当日欠席の嶋元会長より寄せられた意見

- ・集中改革プラン(普通・渡船部会)の(8)イベントの見直し(教育委員会所管のもの)については、今後の取組欄にあるとおり「地区イベントの運営についてはなるべく住民主体の運営として、」のように、なるべく参加者負担により行うものとする。
- ・集中改革プラン(公営企業部会)の(1)病院事業のあり方の検討であるが、現在の周東病院の医師及び看護師の確保が非常に困難な状況から、大島病院の建替えについては、時間をかけて慎重な検討をすべきである。
- ・集中改革プラン(普通・渡船部会)の(20)庁舎機能の見直しであるが、星野記念館の建設に伴い経費の増大が懸念される。夕張のようにならないよう考えるべきだ。

各委員よりの主な意見・質疑応答

- (委員)集中改革プラン(普通・渡船部会)(6)生活交通体系の再編では、100円バスのような利用しやすい交通機関の整備が必要だと考えている。これだけの予算があれば、運行可能なのではないか。

(事務局) 以前の会議でも、岩国市の「くるりんバス」のようなコミュニティバスの運行を検討してはどうかというご意見がありました。現在、町内の4路線はすべて赤字で、それを町が補填している状態ですので、合併後、コミュニティバスも含め生活交通体系の再編について検討を行っております。検討の結果、本年9月末日で安下庄線から中国JRバスの撤退、その後を引き継いで、10月1日から安下庄線を防長交通が運行し、同時に、運行便数の2割程度の削減を行い効率的な運行を行う予定で、これにより、赤字補填額が5千万円から2千5百万円程度に圧縮される予定です。防長交通の安下庄線参入に伴い、防長交通が白木半島線から撤退しますので、一般混乗が可能なスクールバスとして運行する体制となっています。道路運送法の制約もあり、コミュニティバスの運行は現時点では困難だと考えていますが、将来的にはコミュニティバスを検討する必要があると思います。

(委員) コスト面の検討が必要と思うが、竜崎温泉や遊湯ランドなど、町有の施設で送迎用に運行しているマイクロバスの活用を図ることが出来ないか。起債残高が200億ある現状では、国庫補助の有無に関わらず効率化を進めるべきだと思う。

(事務局) 無料なら良いのですが、有償運行する場合、国庫補助路線対象の4条路線を運行している間はそれを優先すべきだというのが、運輸局の見解です。効率化の観点から交通体系の再編を検討する中で、公営企業局の患者輸送車などを活用して再編を検討しましたが、国・県の同意が得られずに撤回した経緯があります。

(副会長) いずれ撤退という話が出る可能性があるので、それまでに検討しておく必要がある。

(委員) 行革を進める上で、私が一番期待しているのは能率給の導入だと考えているが、それについての説明が無かったように思う。どう考えているか説明して欲しい。かつての東和町は高齢化率日本一の町だったが、逆にこれを売りにすると良いと思う。旭山動物園は人を呼び込む方策を講じており、他の動物園も旭山動物園を研究しているはずで、同様に、大島がうまく行けば他の島もその事例をモデルにして活性化するのではないかと考える。今日の報告内容では、歳出を抑制するという努力は窺えるが、積極的に何をやろうとしているのかが、一向に伝わってこない。私の出身地の島と比べ、周防大島の良いところは、若者が帰ってきてNPOを立ち上げて色々な活動を行おうとしている点が上げられるが、行政の壁が厚いという話を耳にしている。NPOを育てることと、シルバー人材の活用に力を入れてもらいたい。一つの例として、水仙などで活動実績がある、大島全体を一年中花で飾るなどの活動を通じて観光客を増やす方策も、取り組みとして面白いのではないかと感じる。今の報告では守りの方策は感じるが、NPO、シルバー人材を活用して攻めの方策を行って欲しい。

(副会長) 人事評価システムを導入するという話だったが、どの辺りまで進んでいるか。

(事務局) 人事評価の基礎データ作成のため、18年度に人事管理システムの導入を行っております。担当課の計画では、国が18、19年度において試行ということでございますので、国の動向を見ながら調査・検討を行い、20年度に導入を検討しておりますし、勤務状況の良くない職員につきましても、欠勤期間の通算などを検討しております。

- (委員) 国のスケジュールをなぜ勉強しなくてはいけないのか、或いは他地域をなぜ視察しなくてはいけないのか、周防大島町独自で取り組みでいいのではないかと考えている。例えば、大きなプロジェクトを行おうとする時は、町民から意見募集を行い、出来る人材を集めてプロジェクトチームを作るような方法で対応できるのではないか。前例を見てからという考え方のままでは、夕張市になる恐れがある。先ほど、勤務状況の悪い職員への対応の話が出たが、マスコミで話題になった問題への対応は早いですが、新しいことに対しては非常に慎重になる。もっと積極的な行政運営を行って欲しい。今の日本は、国が田舎を切り捨てようとしているが、田舎も、田舎が田舎を切り捨てているように思える。効率化といっているが、不便にしているだけのように思われる。
- (事務局) 国の指導では駄目だということで地方分権が進展してきたところですが、実質的には委員さんのおっしゃるとおり、国、他自治体を参考にしている部分があります。町の独自性というよりは、国の制度等を勉強して、それを取り入れてやっていこうという形になっております。能率給の問題ですが、昨年4月、国が給与制度の改定を行っており、給与を4.8%下げて、昇給月を改定し段階を細分化しております。本町もこれを導入しており、これは人事評価制度の導入の前段とご理解いただきたい。人事評価については、評価によって混乱しないように慎重に検討しています。
- (副会長) その辺りが、民間と感覚が違う。国の制度がそのまま当てはまるわけではなく、民間はそれぞれ作っている現状があり、そういう発想をもって、周防大島町に合ったものを作らなくてはならない。
- (委員) 取あえず評価してみる事が重要で、最初からうまく行くはずが無く、トライアンドエラーでやればよい。私の職場は既に導入しており、評価に対する説明は無いが、制度があるだけでそれに対する意識はある。
- (委員) 私の会社でも、評価に対して不満の声はある。
- (委員) 民間では、それなりの評価を行う仕組みを作っている。これだけの職員を抱えているのに、慎重に検討という考え方は理解できない。
- (委員) 人材育成について、民間会社への派遣を検討してはどうか。私の会社では、新人職員に1ヶ月研修を行うだけで意識が変わる。民間の研修のノウハウを学ぶべきだと思う。先ほどの説明では色々な取り組みをやっておられて大変だと思うが、約160億の予算のうち人件費が30億近くかかっている現状では、下手すると夕張の二の舞になる恐れがある。
- (委員) 合併前に、民間会社の方に講師をお願いして研修会をやったことがある。
- (副会長) 先日の新聞の報道では、周防大島町の財政状況は県内で一番悪かったと思う。東和庁舎の建設など、合併前の申し合わせはあると思うが、ハード整備については周防大島町の組織・機構を整理した後に行うべきで、多少不便でも、学校統合などにより空いた施設を利用してするような方策に取り組んで欲しい。
- (委員) これについては、出席委員の総意と理解していただきたい。過去の申し合わせ事項で、これ以上ハコモノ事業を進めることは危険だという住民からの声を耳にする。

(委員) 記念館や温泉などの利用者は多くは見込めないし、近くのホテルが繁盛していない例を見ても分かる様に、プールについては失敗だと思う。

(委員) 星野記念館もいずれ指定管理者になると思うが、それで経費を節減したとしても、建設しなかったときのコストとは比較にならない。ながうらの経営診断を行ったようだが、その内容はどうか。

(事務局) かなり厳しい状況にあります。

(委員) 道の駅が軌道に乗り、海の駅或いは街の駅というのが広まりつつあるが、その中心人物は周防大島町出身の方である。他にも外に出て活躍されている方が大勢居る。地域おこしは規模が同じでも、本土の1町村でやるよりは周防大島全体で取り組む方がインパクトがある。他所を視察するよりはこういう方の話を聞くが有意義だと思う。